



健康テラス



こが内科外科
クリニック
古賀 崇 先生

腸閉塞について



腸閉塞とは何らかの原因で腸が詰まり、内容物やガスが腸管内に停滞してしまう病気です。症状は腹部全体の痛み（間欠痛の事が多い）、便秘、嘔吐、腹部膨満、発熱、頻脈などがあります。腹痛は軽いものから激痛を伴うものまで様々です。

腸閉塞には大きく分けて腸が物理的な原因で閉塞する機械性腸閉塞と、消化管の動きが悪くなり内容物が停滞する機能的腸閉塞と2種類あります。

機械性は開腹手術後などに腸が癒着することにより内腔が狭くなったり、腫瘍があるために通りが悪くなる単純性と、腸への血流が悪くなり腸が壊死してしまう複雑性があります。

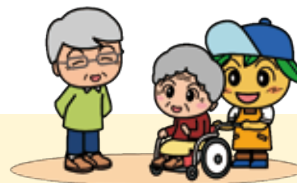
機能的は手術直後や腹腔内に炎症があり、そのために腸管運動が麻痺してしまう麻痺性、薬や精神的な事で腸が痙攣する痙攣性があります。

単純性や機能的には一般的に保存的治療が行わ

れます。保存的治療では禁食で腸管を安静にします。必要に応じて抗生物質の投与を行ったり、鼻からチューブを挿入し腸管内容物の吸引および減圧を行います。それでも治癒しない場合は癒着を剥がす手術を行ったりします。複雑性は時間がたつと腸管が壊死してしまうため緊急に手術を行います。一刻も早く捻じれている腸管を解除し、腸管が壊死していればその腸管を切除します。

腸閉塞になりやすい方は予防として暴飲暴食を避け、消化の良いものを食べることが大切です。また腸の動きを良くする漢方薬の大建中湯や六君子湯、四君子湯などが腸閉塞の予防や症状緩和に有効と言われています。食事は、油分が多い食事、玄米、ラーメン、こんにゃく、硬い繊維の野菜（レンコン、タケノコ、ゴボウ）等消化の悪い食材、揚げ菓子やチョコレート等は控えるようにしましょう。

かい介GOの部屋



～在宅医療介護連携について②～

長与町では医療と介護の連携推進の取り組みの一環として、平成28年より『在宅医療介護連携推進協議会』を発足させ、医療・介護関係者、地域住民の代表の方と共に活動をしています。

今回は、その活動の一部を紹介します！

①『長与町の医療・介護・認知症ガイドブック』作成

町内全ての医療機関・薬局・介護事業所の一覧をはじめ、「地域包括ケア」に関する情報や、町の認知症に対する取り組みなどの情報が詰まった1冊です。介護保険課の窓口にありますので、ぜひご活用ください。



②在宅医療と介護に関する講演会を開催

これまでに、アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)についての講演会や、「在宅医療・介護」に関する疑問や悩みを各分野の専門職がお答えするシンポジウム形式の講演会を開催し、多くの皆さまにご参加いただきました。次回開催の際は、広報などでお知らせします。

③医療関係者、介護関係者向けに、医療機関・介護事業所の情報を掲載した冊子の作成や研修会を開催

スムーズに在宅で医療や介護を受けるには、医療関係者や介護関係者の連携が必要不可欠です。この連携を強化するために役立つ情報を掲載した冊子の作成や研修会を開催しています。

④誰もが日常生活での困りごとなどの相談が出来るよう、地域包括支援センター内に相談窓口を開設

「病気になったらどうしたら良いのかな?」「介護が必要になったらどうしよう?」「最期まで自分の家でくらしたいな…」など、日常生活の中でふと不安になったり、疑問に思ったりすることはありませんか? また、ご家族やご近所の方の生活について、ご心配をされている方もいるかもしれません。そのような時は、まずは地域包括支援センターにお気軽にご相談ください。

これからも、上記の活動を通して、行政と医療・介護・予防、また地域のさまざまな分野が連携し、みなさんの在宅での生活をサポートできる体制・ネットワークづくりを目指します。

次回は「介護予防の大切さについて」です。お楽しみに！